

柏崎税務署長賞

『身近にある税』

柏崎市立鏡が沖中学校 三年 高橋 大洋

僕はよく、海の近くにある自然豊かな公園や芝生その近くにあるサッカーコートでサッカーの練習をしている。その公園はいつもきれいな芝生やウッドチップで整えられていて足に優しく、走りやすく、ボールをけりやすい環境だ。たまに吹く海からの爽やかな風はとても気持ちがよく、自然と集中できる。

練習は決して楽なものばかりではない。特にランニングトレーニングは、僕も好きではなく息も上がり苦しく、疲れも溜まる。しかしこの公園の環境があるからこそ、集中して取り組めるのだと思う。寒い日や、暑い日もあるが、そのたびに仲間と励まし合いながら練習を続けている。つらい練習の後の達成感は格別で、そんな時に支えてくれるのがこの場所だ。

公園は季節ごとに表情を変える。夏には青々とした芝生が広がるし、秋は涼しい風と共に落ち葉が舞う。それもまた練習の集中力を高めてくれる。こうした自然の美しさも、この公園の大きな魅力だ。

ある日練習の合間に僕は思った。「ここっていつも綺麗だな。」と。その公園はいつ行っても綺麗だ。ゴミが落ちていたりするのは見たことがないし、木もしつかりと整備してある。どうしてこんなに綺麗なんだろう？その疑問が解決したのは、講師の話をきっかけに税金について学んだ時だ。そこで、草刈りや、清掃、設備の管理などの維持費は税金で賄われていると分かった。毎日のように行われている大変な手入力は、税金のおかげだと知り、暮らしの裏側で支えてくれるしくみの存在を改めて実感した。

もし税金がなければ、この公園の手入れもできず、練習のしにくい場所になってしまうかもしれない。そう考えると、そのありがたみをより一層強く感じられた。

さらに、お金の使い道はこの公園だけでなく、学校の設備や道路、公共交通などにも広がっている。普段何気なく使っているものがサービスのほとんどは税の仕組みの中で支えられていると思う。普段はあまり意識しないけれど、私たちの生活は税金によって支えられていると思う。目に見えないけれど、僕たちの生活のあらゆる場面を支えてくれる税金という存在は、まさに日本を支える「縁の下の力もち」だと感じた。

この力をもっと太く強いものにしていくには、納税者一人一人の理解が欠かせない。使いやすい公園や綺麗な道路、学校などの施設は決して当たり前ではない。僕は日々自分たちが納めている税金の使い道を知り、身近なもので感謝の気持ちを持つことができた。今後は、より多くの人が関心を持ち、協力し合っていく事で税の力はさらに強くなると思う。僕も税金に感謝しながら、税についてもっと関心を持ち、自分にできることを考えていきたい。